

KGAニュース

'85 50周年記念号



第1回関東クラブショア(カントリー)

目次

ゲームズマンシップをもう一度見直そう	1	昭和60年度関東グランドシニアゴルフ選手権競技	15
細川 譲貞		ルールQ & A	18
創立50周年記念競技会/祝賀パーティー	3	理事会・委員会	20
関東ゴルフ連盟50年のあゆみ	5	月例競技成績表(9・10月)	21
昭和60年度関東シニアゴルフ選手権競技	12	月例(11月)/コース・レート、お知らせ	22

No. 13

理事長インタビュー

ゲームズマンシップを もう一度見直そう

関東ゴルフ連盟理事長 細川 譲貞

聞き手・KGA広報委員 杉山 通敬



— 関東ゴルフ連盟が50周年を迎えたということで、細川理事長にそのご感想と今後の抱負をおうかがいしたいと思います。

「戦前と戦後で“クラブ”に対する考え方が違ってきたのじゃないですか。戦後のクラブは経済的な問題もあるでしょうが、営利が目的の経営者が会員を募集してるところがないではないですから、ゴルファーのはうもいい意味での遊び心が不足しているように思いますね。ゴルフは遊びですもの……」

— 遊びは粹にやりたい。

「ええ、仲間同志がピュアなものをもってないと遊びはけがれたものになりますね。遊びにもルールがある。いや、遊びだからこそルールを守り合わなければ成り立たない。わたしがゴルフを始めたのは大正11年、旧軽井沢が出来たときなのですが、その時に末廣義太郎さんと鳩山秀雄さんからこう言われました。つまり、ゴルフには厳しいルールというものがあるんだが、きみたちは始めたばかりだし、子供のことでもあるし、ケース・バイ・ケースのルール解釈がうまく出来ないだろう。しかし、つぎのふたつのことを守りさえすれば、間違えることはない。それはまず、一度ティから打ち出したボールはホールアウトするまで触らないこと。あるがままのボールを打ちつづけてホールアウトする。“Play as it Lie”的原則ですね。どんなところへ行ってもその原則を守り通すこと。それがひとつ」

— ひとつのボールを連続プレーして、しかもプレー中は触れたり、動かしたりしない。これはゴルフ発生当時からの大前提でしょうね。

「ええ。もうひとつはスピリットの問題です。状況によって、どうしてもボールに触るというか、ルールにてらして処置しなければならないケースが出るが、そういう場合でも、いくつかある処置の方法の

中で、自分にもっとも不利になるような方法を探れ、と、ふたりの法律学者から言われました。自分に有利になるような処置は採るな。と」

— アドバンティージをとるな、というわけですね。

「結局、ゲームズマンシップの問題です。ゴルフは遊びのひとつだと思いますが、ゲームを存分に楽しむためには、ゲームズマンシップが發揮されないと楽しみは半減どころか、まるでなくなってしまう。そのゲームズマンシップが旺盛ならゴルフのルールはいらない、と言ってもいい」

— 各クラブで、そうしたゴルフ本来の精神とは何か、それを浸透させていくようにする必要があると思いますが……。

「日本人の特質みたいなものでしょうが、たとえば日本の芸事ですね、お茶とかお華とか。そういう伝統芸能にしても、お茶の点て方なり作法、お華の活け方といった、いわゆるノウハウですね、技術的な指導書、これはよく売れるようですが、どういう歴史的な背景のもとに、そうした技術が育ってきたか、その歴史について書かれた本になると、まるで売れないんです。これ、ゴルフもまったく同じじゃないですか」

— 摂津茂和さんもおっしゃってましたけど日本ではゴルフの歴史とかインサイドストーリーについての本は売れないで、どうでもいいようなインストラクションの本ばかり氾濫している。イギリスはその逆だ、と。

「あるがままのボールを打つこと、プレーヤー自身がアドバンティージをとらないようにルールを解釈すること、このふたつの原則が生れた歴史的な背景ですね、それを知ればゴルフはもっともっと楽しめると思うんです」

理事長インタビュー

——ゴルフがほかの球技とちがうところは、プレーする場がいわば広大無辺で、しかもアンデュレーションがあります。打ちやすいところもあれば、打ちにくいところもあるわけで、それがほかの球技とは違った楽しさを味わってくれるんですね。

「それに自然条件もありますね。イギリスでは風のある日のほうが“ゴルフ日和”だというじゃないですか」

——現在、連盟加盟は345クラブということですが、各クラブがそうしたゴルフのゲームズマンシップとは何かを煮つめるというか、知らしめるような活動をする必要があると思うのですが……。

「結局、ゴルファーひとりひとりの自覚の問題でしょうね。それからクラブというより、経営者の考え方です。同好の志の集まりがクラブだと思いますが、最近は経済というか、お金のほうからクラブ運営を割り出す傾向が強いと思います。ですから“クラブ”という名前をつけることに、そもそも問題があるのかかもしれません。××ゴルフ株式会社が経営する××ゴルフ場、という感じで、ゴルフクラブとはちょっと言いにくいところがありますもの。ですから、ローカルルールのつくり方にしても、例えばプレースですね。冬になると“6インチ・プレース”的ローカルルールを設けるところが多いようですが、あれはどうですかね」

——芝生保護のためだと思いますが。

「その“保護”ということから言いますと、そのまま打たせたほうがいいように思うんです。プレースすると、たいてい、芝の生えた高いところ、打ちやすいところへ置きますよね。状態のよい芝を削り切るわけじゃないですか。あるがままのボールなら、ボールは丸いですから回んだところへ転がる。そこは芝のないところか、ひどく状態の悪いところのはず。低い場所の芝を削って、あとで目土すればそこが高くなって、周りとレベルになるわけで、ノータッチでプレーしたほうが、かえって芝の保護になると思うんですが、どうでしょうね。わたしのところ(東京ゴルフ倶楽部)は冬でもノータッチです」

——コースを痛めないつもりのものが、逆に痛めているわけですか。

「ま、考え方の問題でしょうけど。ゴルフとはどういうゲームなのか、それをもう一度、みんなで考え直してみる必要があると思いますね」

——皆んなで考えたい問題のひとつに“暴力団”的ことがあります。多くのゴルフ場が頭を痛めているのですが、なにかい方法はないでしょうか。

「困った問題ですね。ゴルフ場に入ったら、ゴルファーはすべて平等のはず。お互いがルールを守り、ゲームズマンシップを發揮してプレーするのならいいんでしょうね」

——暴力にはルールがないので困りますね。

「どういう方向にもっていったらいいのか、これも皆んなで考えなければならないと思います。ゴルフのスピリットが乱れているというか、ないと、彼らにつけこまれるのじゃないですか」

——連盟が出来て50年経ったわけですが、この先の50年はどうでしょう。

「さあ、どうでしょうね(笑)。ただ、若いゴルファーはだんだん良くなっていますよ。大学のゴルフ部でやってた人達など、プロの世界でもアマチュアの世界でも、いろいろな面で良くなってきた。彼らが自己鍛錬してリーダーシップをもつようになれば、全体も良くなると思いますね。問題はいま指導的立場にある50代、60代の方達じゃないですか。会社ではいわゆる“上司”ですから、それをゴルフ場にまで持ち込んで、部下はべこべこする。社用ゴルフとか、接待ゴルフがゲームズマンシップを乱してるところがあると思うのですが、それはゴルフ場でも上司の“顔”をしてプレーするからじゃないでしょうか」

——戦前のゴルファーはいわゆる有産階級(現在は一億中産階級だそうですけど)の方達ばかりだったわけで、その意味じゃ、われわれ庶民の子までゴルフが出来るようになったのは大変ありがたいことだと思います。ただ、その“ありがたがり方”が歪んでるのじゃないか、と思われませんか。

「いや、戦前だって、金持のお坊ちゃんなど我儘なところがありましたから、そう変りませんよ。問題は“粹に遊ぶ”ことじゃないですか。そのためには、もう少しゴルフの歴史をみんなで知る必要があると思いますね」

関東ゴルフ連盟 創立50周年記念競技会/祝賀パーティー



▲競技会場・横浜カントリークラブ玄関 クラブ正面入口

今年で創立50周年を迎えた関東ゴルフ連盟は、これを記念して10月29日(火)に神奈川県横浜市保土ヶ谷区の横浜カントリークラブで盛大な記念競技会と華やかな祝賀パーティーを開催した。

この日、ご招待したのは日頃お世話になっている関係団体等の代表者や、報道関係者、および345の加盟全倶楽部の代表者、それにホスト役の連盟側から細川護理事長をはじめ全理事と各委員会の委員の出席を予定していたが、都合で出られなくなる人も多く、この日の競技参加者は総計175人となった。

記念競技は加盟倶楽部代表者と連盟役員の合計110名が横浜C.C.の東コース、来賓と報道関係者に委員が入った65名は西コースに別れて、それぞれ18ホール・ストローク・プレーを行った。天候は今にも降り出しそうな曇り空が続き、午後にはとうとう小雨模様となってしまったが、風もほとんど無く、どちらかといえばゴルフには手頃の好コンディション、なごやかな中にもそれぞれが真剣なプレーを展開した。

結局、東コースの加盟倶楽部代表者と役員の部では岩井カントリークラブの阪上和俊氏がグロス84、ハンディキャップ18、ネット66にまとめ、ネット67(ハンディキャップ26)の川越カントリークラブの尾畠清爾氏を1ストロークおさえて優勝を獲得、西コースの報道関係者と委員の部では、競技委員とコースレート査定委員を兼ねている新井安寿氏がアウトで5バーディーの馬鹿当りで2アンダーの34をマーク、インは1オーバーの37に止ったが、グロス71、ハンディキャップ3、ネット68で2位についた森嘉博氏(月刊ゴルフダイジェスト)にネットで3ストロークの差をつけて優勝をさらってしまった。

競技が終了し、午後3時30分から横浜カントリークラブの広い2階食堂で創立記念パーティーが開催された。最初に細川理事長より「関東ゴルフ連盟は昭和10年に創立されて以来、第2次世界大戦で一時中断されたが、創立50周年を迎えた現在は345の加盟倶楽部を擁して日本ゴルフ界でも最大の地区連盟として重きをなしているのは、ひとえにゴルフ界の為に尽力された諸先輩のご努力と、加盟倶楽部はじめ関係者の皆様のご協力のお蔭……」と挨拶があり、来賓代表の美津農スポーツの松浦秀雄氏の音頭で50周年を祝う「乾杯」が行なわれ、なごやかなパーティーに移ったが、会場には特設の屋台等も設けられ、出席者も各テーブルを巡って賑やかな交歓風景が展開された。

その後、東コース、西コースに分けて成績発表と賞品授与でひとしきり賑わい、午後5時過ぎに散会、参加者はそれぞれ賞品と帰り際に配られた関東ゴルフ連盟50年史と手みやげを手に帰って行った。



▲お蔭様をいただき、連盟創立50周年は意義のあった50年であった。これからも……と挨拶される細川連盟理事長



▲にぎやかに話がはずむパーティー会場(四景)

▼「連盟の益々のご発展を祝して」乾杯の音頭を取られた美津濃の松浦氏



▲パーティー会場



▲日本プロゴルフ協会浅見会長の顔もあった。



50年のあゆみ

関東ゴルフ連盟50年のあゆみ

1. 関東ゴルフ連盟の創立

(～昭和19年)

生みの親は関東俱楽部対抗競技

昭和9年、現在の関東俱楽部対抗競技に当たる関東8俱楽部対抗競技大会が初めて開催された。名称に「8俱楽部」と冠されたのは、この大会が東京、程ヶ谷、武藏野、霞ヶ関、我孫子、相模、藤沢、鷺之台の8俱楽部の間で計画され、実施されたからであった。

同年5月7日(第1回戦)、6月10日(準決勝)、7月1日(決勝)の3日にわたった大会では、決勝戦で程ヶ谷カントリー俱楽部チームと武藏野カントリー俱楽部が対戦し、12-3の大差で程ヶ谷チームが第1回優勝の栄を手中にしている。

この大会は、創立のきっかけになったという点において、連盟にとっては画期的な意義をもつものであった。

連盟の創立経過を物語る資料は、こんにち皆無に等しい。今次大戦による戦災や戦後の占領軍によるゴルフ場接収などによって散失してしまったからである。その中で『東京ゴルフ俱楽部五〇年史』が次のような内容の記録を残していた。

「昭和10年6月7日、関東ゴルフ連盟が創設され、関東ゴルフ界の統制を図り、併せてゴルフの普及発展を期すこととなった。連盟設立に関する協議会は昭和9年から開かれ、ようやく創立総会を開催するはこびとなつたものである。加盟俱楽部は東京、程ヶ谷、武藏野、霞ヶ関、我孫子、相模、藤沢、鷺之台の8俱楽部であった」

この記録と関東8俱楽部対抗競技の記録を重ねてみると、第1回関東8俱楽部対抗競技大会のあと、これらのクラブ間に大团结の機運が急速に盛り上がり、関東ゴルフ界発展の推進機関として、昭和10年6月7日に連盟が創設されたと考えられる。

関東俱楽部対抗競技こそ、連盟の生みの親であつたわけである。

関東ゴルフ界のバイオニア

連盟が創設された頃、日本のゴルフ界は外国人による移入時代(明治34～大正3年)、日本人による創始期(大正3～11年)、第1次発展時代(大正11～昭和4年)を経て、第2次発展時代(昭和4～13年のさなかにあった。当時の東京近郊には、すでに約20カ所の会員制ゴルフ・コースがあり、隆盛をきわめていたといふ。

これとほぼ同数あったゴルフ・クラブのうち、関東では最初、日本でも3番目のゴルフ・クラブとして誕生したのは、明治39年(1906)11月に設立されたニッポン・レース・クラブ・ゴルティング・アソシエーションであった。同クラブは、横浜・根岸競馬の会員によって組織されたもので、コースも全長1マイル(約1.6キロ)余の馬場の内側に設けられた。

これに次ぐのは大正2年12月、横浜正金銀行頭取井上準之助(のち日銀総裁を経て大蔵大臣)が中心になって創立した東京ゴルフ俱楽部である。同俱楽部は創立の翌年、現在の駒沢付近でコースの建設に着手し、6月には6ホールで仮開場した。



▲井上準之助氏

この頃の日本人ゴルファーはわずか数人といわれ、そのほとんどはイギリス、アメリカでゴルフを覚えて帰った者であった。また、ゴルフ・コースも六甲、横尾、根岸、雲仙の名がみられる程度で、これらのコースでプレーしたのは外国人のみであったという。このような時代に日本人による、日本人のためのゴルフ・クラブとして誕生し、その後の日本ゴルフ界の発展に大きな影響を与えた東京ゴルフ俱楽部とその生みの親である井上準之助こそ、パイオニア中のパイオニアといえるのである。

東京ゴルフ俱楽部駒沢コースでは、日本アマチュア選手権はじめ数々の歴史的競技が行われた。そして、大正15年5月に9ホールから18ホールに拡張改修されてからは一層の盛況をみたが、昭和7年4月の朝霞コース完成に伴い、クラブ・コースとしての歩みを止めた。しかしながらこの朝霞コースも、時局の悪化から軍の徴用を受けたため、16年3月同コース閉鎖とともに秩父への移転をよぎなくされた。

関東では、東京ゴルフ俱楽部を初めとして、大正年間に仙石原ゴルフ・コース(6年7月)、軽井沢ゴルフ俱楽部(9年8月、昭和6年移転)、程ヶ谷カントリー俱楽部(11年2月)、武藏野カントリー俱楽部(13年6月、15年10月千葉・六実へ移転)などが創設された。また昭和初期には、多摩カントリー俱楽部(3年4月)、川奈コース(大島コース・3年5月)、霞ヶ関カントリー俱楽部(4年5月)、我孫子カントリー俱楽部(5年10月)、相模カントリー俱楽部(6年9月)、藤沢カントリー俱楽部(6年10月)、鷺之台ゴルフ俱楽部(6年)、川崎ゴルフ俱楽部(9年5月)なども創設され、連盟発足後に那須ゴルフ俱楽部(10年10月)、小金井カントリー俱楽部(12年)なども創設をみている。

連盟、戦渦に消える

戦前の連盟主催行事は、加入クラブの親睦を図ることが重視されたため、俱楽部対抗、関東アマチュア選手権、双竜競技などとめられた。このうち、連盟が最初に主催したのは俱楽部対抗競技で、創立直後の昭和10年9月と11年、12年の3回にわたり、関東8俱楽部対抗競技大会として開催した。この間の昭和12年7月には、日華事変が勃発してはいるもの

の、ゴルフ界にとっては比較的平穏な時期であった。

ところが、小金井カントリー俱楽部の連盟加盟で、関東8俱楽部対抗が関東9俱楽部対抗と改められ、関東アマチュア選手権と双竜競技が創始された昭和13年に入ると、ゴルフ界にも時局の影響が及び始めた。たとえば、同年4月1日に国家総動員法が公布された結果、この日から事変特別税法によりゴルフが課税の対象とされたということがある。また、同年度からゴム製品の統制が行われることとなつたため、日本ゴルフ協会が鉄道ゴルフボールの統制に着手するといったこともあった。

昭和14年、第2世界大戦の勃発によって緊迫した国際情勢は、15年に入ると一層その度を強め、国内でも戦時色が濃厚になった。ただでさえ、一般に「ゴルフは遊び」とみなされた時代である。ゴルフの環境は厳しさを増す一方であった。そのため連盟と日本ゴルフ協会は、加盟クラブに対しゴルフの自肅を通達、全国各クラブも次々と独自の自肅案を打ち出した。

関東アマチュア選手権こそ昭和14年で中止になつたが、俱楽部対抗競技は関東カップと名を改めて15年にも開催された。これも、連盟をはじめ各クラブの努力があつたからであろう。しかし16年になると、ゴルフ界はいよいよ深刻な事態を迎えた。ゴルフ場が次々と軍用地に徴用されはじめたのである。

最初に犠牲となったのは、イギリスの名設計家アリソンが手がけた東京ゴルフ俱楽部朝霞コースであった。続いて武藏野カントリー俱楽部六実、藤ヶ谷両コースが陸軍の徴用を受け、昭和18年には藤沢カントリー俱楽部のコースが海軍の徴用を受けた。武藏野、藤沢の両俱楽部は、戦後も再建されることなく終っている。



▲東京ゴルフ俱楽部



▲ゴルフコース設計家アリソン氏

昭和16年12月8日、日本は太平洋戦争に突入した。それとともにゴルフは敵性スポーツとみなされるようになり、翌年9月12日には日本ゴルフ協会の解散という事態にまで追い込まれた。そして1ヵ月後、連盟も解散のやむなきに至った。

2.連盟の再建と発展

(昭和20~59年)

関東6俱楽部により連盟復活

昭和20年8月15日、戦争が終った。日華事変から8年。経済を消耗し尽くしての終戦であった。国土の荒廃ぶりは、今日ではとても想像できないであろう。

ゴルフ場もその例外ではなかった。戦時の徴用と農地化が進む中で人手不足も重なり、充分な整備が行えなかつたからである。しかも、戦争が終つたからといって、直ちに再開準備に着手することもまならなかつた。

昭和20年9月、連合国軍の名のもとアメリカ軍が進駐を開始してからは、各地のゴルフ場が憲撲施設として接收されていったのである。そのため相模、我孫子など接收をまぬがれたコース以外は、会員といえども極端に不自由なプレーを強いられた所が多かつた。

しかしながら、昭和23年頃からは接收下のゴルフ

場でも日本人のプレーが緩和されはじめ、各クラブの動きも活発化した。

連盟が復活したのも、この頃であった。

連盟復活の経過を物語る資料は、次の2~3が残されているだけである。そのうちの1つは『小金井カントリー俱楽部三〇年史』の記録である。

「5月24日(24年)の常務理事会で、関東ゴルフ連盟に加入するよう勧説があったことについて論議…加入することを内定した」

8月3日(24年)、関東ゴルフ連盟再建に関する打合せ会が交詢社で開かれた。前の常務理事会の決定に基づき、中川、生田両理事が本会を代表して出席した。この会には、関東6俱楽部の代表者それぞれ2名ずつが出席して協議をした。その結果、各俱楽部が2万円ずつ出して、本年度の連盟諸行事を実施することを決定した」

またもう1つは連盟に残る「関東ゴルフ連盟加盟俱楽部代表者打合せ会決議報告書」と名付けられたガリ版刷の文書である。

これには、「8月25日(金)午後5時半新宿ガーデンに於て開催した関東ゴルフ連盟加盟俱楽部代表者打合せ会にて、左記事項を決議しましたから御通知申し上げます」との前文に続き決議事項として(一)関東アマチュア選手権競技に関する件、(二)本連盟規約追加の件などが記され、最後に当日出席者として我孫子、程ヶ谷、霞ヶ関、小金井、東京、相模の俱楽部名とともに各代表者氏名が挙げられている。

さらに、「昭和24年度(自9月1日至12月31日)収支決算報告書」と題する文書には、「収入之部」として、一、会費(6俱楽部)12万円の記録がみえ、別の各加盟俱楽部宛の文書には「相模カントリー俱楽部内 関東ゴルフ連盟」と記されている。

これらの資料からみて、連盟復活の機運は昭和24年5月頃から急速に高まり、東京、程ヶ谷、霞ヶ関、我孫子、相模、小金井の6俱楽部で協議が重ねられた結果、同年8月に連盟規則が制定され、同9月1日には相模カントリー俱楽部内に事務所を置いて、連盟が正式に復活したことが分かる。

委員長(現在の理事長)には、当時相模カントリー俱楽部のキャプテンで、同俱楽部の代表であった寺西二郎が就任した。



▲小寺西二氏

さらば星条旗

連盟は、復活直後の昭和24年10月、まず関東アマチュア選手権を主催した。この競技は、昭和18年9月に大日本体育会打球部会が行ったものの、実質的には15年で中断していたものである。その翌年、昭和25年5月には関東オープン選手権を創始、26年6月には関東プロ選手権を初めて主催した。

同選手権は、昭和6年に創始された競技で、19年から22年まで中断、23年から復活していたが、連盟が正式に主催するまで、主催団体があいまいなまとなっていたものである。

関東アマチュア、関東オープン、関東プロの各選手権大会は、昭和29年になって関東俱楽部対抗と関東シニア選手権が連盟主催競技に加わるまで、関東ゴルフ界恒例の3大競技となった。

とはいえ、当時はまだほとんどのゴルフ場で進駐軍が主導権を握っていた時代である。加盟クラブ宛の案内状に、「今般連合軍の御好意により……」などとあるように、必要以上の配慮を強いられる場面もみられた。

こうして昭和27年になった。この年4月には対日平和条約が発効することとなっていたが、これより1カ月前の3月末からゴルフ場の接収が解除されはじめた。そして、同年中にはほとんどのゴルフ場が

返還されたのである。関東ゴルフ界は、いよいよ本格的再建の時代を迎えたのである。

連盟は、こうした潮流に対応するため昭和28年3月、事務所を東京・銀座へと移転、翌年には「関東ゴルフ連盟規約」を改正、施行した。

戦後を超えて

昭和30年代は、「もはや戦後ではない」という流行後に始まり、神武・岩戸の両景気を背景として、一般の所得水準も急速に上昇していった時代である。その一方では、週刊誌ブームをはじめとして、ブームがブームを起こした時代でもあった。その中で最も大きなものは、昭和32年に「ゴルフ大衆化」とマスコミでも報じられたゴルフ・ブームであろう。

ブームのきっかけとなったのは、同年10月に霞ヶ関カンツリー倶楽部東コースで開催されたカナダ・カップ国際競技大会であった。この大会には30カ国から60人の選手が参加した。したがって、日本チームは10位以内にいくつめば上出来、というのが大方の予想であった。ところがふたを開けてみると、総合で日本チームが優勝、個人でも中村寅吉が優勝をさらってしまったのである。



▲チーム優勝のほか、個人でも優勝を飾った中村寅吉氏(左)

連盟は、このカナダ・カップ開催にさししギャラリー委員81人、スコア委員82人を派遣するなど、4日間にわたる大会の運営に協力したが、一方、連日つめかけた1万人あまりのギャラリーは、日本チームの

奮闘ぶりに熱狂した。日本のゴルフをアピールするうえで、絶好の機会となつたわけである。おりもおり、景気は昇り坂にあり、一般的の目はレジャーに向かいはじめていた。カナダ・カップを機に、ゴルフ人口が急増したとしても不思議ではなかった。

ギャップのないハンディキャップ

これより先、昭和30年5月28日、連盟は「関東ゴルフ連盟ハンディキャップ査定規約」を制定するためにハンディキャップ協議会を開催、ハンディキャップ委員会の設置と同委員会による規約立案を決定した。この決定に基づいて発足したハンディキャップ委員会は、同年末に規約案を制定、理事会の承認を得て31年1月1日からの実施と、同年10月開催の関東アマチュア選手権からの適用を決定した。

規約制定の目的は、アマチュアのハンディキャップ公正化を図り、主催競技の公正な運営を期することであった。現在からみると、公正というのもおかしいものである。しかし当時、ハンディキャップはクラブごとに決めればよいという考え方が一般的であった。ハンディキャップにギャップがあったのである。関東アマチュア選手権など公式競技では、このギャップが問題だったのであった。

規約を制定したあと連盟は、ハンディキャップ査定の基礎となるコース・レーティングに着手、昭和31~39年までに60カ所余のコースについて、コース・レートを査定した。これらの事業は、今日ほど完成したものでないにしても、時代に先行するものとして評価に値する。

30年代には、このほかグリーン研究会を開催し、関東女子ゴルフ選手権を創始した。

激動の時代へ

昭和40年代は、経済の光と影がめぐらしく交錯した。前半、いざなぎ景気を頂点として未曾有の繁栄を遂げた経済は、46年のドル・ショックを契機にかけりをみせ、48年のオイル・ショックによって、ついに終幕を迎えたのであった。

しかしゴルフ人には、下降線をたどることはなかった。連盟への加盟クラブ数からこれをみると、昭和30年代の10年間で51クラブ増加しているのに対し、

40年代は2倍の101クラブが増えており、49年末のクラブ数は160となっているのである。

この40年代における最も大きな話題は、日本ゴルフ協会の改組であった。

最近20年間のKGA加盟クラブ数

昭和	クラブ数	昭和	クラブ数
41年	74	51年	212
42	78	52	249
43	82	53	274
44	85	54	293
45	98	55	311
46	103	56	324
47	107	57	330
48	131	58	335
49	159	59	343
50	185	60	345

発端となったのは昭和37年7月、関西ゴルフ連盟から日本ゴルフ協会に提出された「日本ゴルフ協会改組に関する要望書」で、その主旨は「日本ゴルフ協会は、日本ゴルフ界の統一機関であると一般に認識されているが、全般的に組織の面ではこれに該当していない。ゴルフ界の現状から考えて、日本ゴルフ界の指導啓発の機関を加味したものに改組してほしい」というものである。

改組強化に関しては、日本ゴルフ協会、関東ゴルフ連盟とも大賛成であった。そこで、これを契機として44年頃まで、再三にわたり3者それぞれの案をもち寄り、協議を重ねたが、結局妥協点を見出せないままに終始した。日本ゴルフ協会などが主張する「地区連盟単位改組案」と、連盟の「クラブ単位の組織案」との開きが大きかったからであった。

連盟はこの間、一貫して「日本アマチュア・ゴルフ・JGA一元化」の思想をつらぬいてきた。しかし、このままでは一元化に支障をきたす。そこで昭和44年10月、連盟は関東側主張を盛り込んだJGA会則改訂案を作成、次の意見書とともに提示した。

「……当分現状維持とし、名実共にJGAを最高機関とする一元化改組を狙って公正妥当の進路を求むる事に努力すべきであると思料するが、一応暫定的一段階を踏む事として連盟単位の方途を成就せしめ、

漸進的に一元化の構造を固めて将来の完結を期するとするなど、本連盟は地区連盟単位改組構想に関する原案について別紙の如き修正を要求するものである……」

これによって、改組問題は大きく動きはじめた。その後、3者間で原案修正のやりとりがあったものの、昭和44年末には地区連盟組織への改組が実現したのであった。

関東オープン有料制に

昭和47年、日本ゴルフ協会主催の日本オープン、日本女子オープンとともに、連盟主催の関東オープンも有料制で開催されることになった。それまでは、公式競技でもギャラリーに入場料を求めることがなかったので、関係者にはみなみなならぬ配慮が強いられた。

たとえば前売券発売の問題である。記録によれば、連盟は加盟クラブに協力を求めるなどして前売券発売の配慮をしたが、なかなか思うにまかせず、開催日を目前に一喜一憂の毎日であったという。

だが、これらの苦労は結局むくいられた。同年9月7日から10日まで、袖ヶ浦カントリークラブで開催された大会は、有料制とあいまって賞金総額も500万円に増額されるなど公式オープン競技としての体



▲昭和54年10月16日に仮開場したゴルフ・ミュージアム

裁が整ったため、観客が殺到した。また、競技のもう片はNHKテレビが放映したため、茶の間に釘づけになったファンも多かったといわれる。競技では、尾崎将司が青木功に3ストロークの差をつけ初優勝した。

なお、昭和42年5月に関東グランド・シニア選手権を、46年5月には関東シニア・オープン選手権を創始している。

多様化する連盟の事業

昭和50年以降、経済は安定成長期に入り、国民生活に1つの思想的軌道修正がはじまった。それは、物中心から人中心へという修正であった。この頃から、人々の間に根強い健康ニーズがわき上がったことも、そのあらわれとみなすことができる。

この健康ニーズは、ゴルフにも大きな影響をもたらした。50年代の加盟クラブ数は、30年代の4倍、40年代の2倍にも達したのである。それに伴い、連盟の役割はいよいよ重大なものとなり、事業内容も多様化した。

たとえば、昭和52年には「関東ゴルフ連盟ハンディキャップ規定」を制定し、エチケット普及ポスターを制作したし、53年には税対策に奔走、54年には「競技管理基準」と「連盟後援競技承認基準」を制定

し、「ゴルフ・ミュージアム設立運営資金募金」活動を行った。また、昭和55年に関東ジュニア選手権を創始したことに関連し、57年からジュニア教室を開設、同じ年に連盟の機関誌『KGAニュース』を創刊した。

関東ゴルフ連盟ハンディキャップ規定の制定

これら多様化な事業の中で、昭和50年代のエポックを画すものは、なんといっても「関東ゴルフ連盟ハンディキャップ規定」の制定であろう。

この規定を制定するについては、昭和51年6月、日本ゴルフ協会が配布した「クラブ・ハンディキャップに関する勧奨」が動機となっている。

同勧奨には、その人の実力に応じたストローク・コントロールを実施するため、よいスコアであろうと悪いスコアであろうと、その人相応のハンディキャップ査定用スコアが出来るなど、少なからず利点があった。ところが、配布された結果は意外であった。関東でこの勧奨を採用、実施したクラブは、178クラブ中48クラブにしかすぎなかった。その主な理由は、古くからの名譽段位的なハンディキャップに執着し、勧奨の合理性に反発するクラブが多かったからであった。

この事態を重くみた連盟は、昭和52年3月の常務理事会で勧奨に関する問題を討議、基本方針として連盟加盟クラブのハンディキャップ決定、変更に関する基本システム確立を決めた。同時に、実施に当たっては①コンピュータを採用すること、②52年中を猶予期間として実施目標を53年1月1日にすること、③その間に各クラブに対しては委員が説明納得させること、などを承認可決した。

ハンディキャップ委員会は、以上の決議に基づいて活動を開始、「関東ゴルフ連盟ハンディキャップ規定案」を作成するとともに、同年4月中5回にわたり説明会を開催した。そして、合計178クラブのハンディキャップ委員長、クラブ関係者との話し合いを行った結果、同5月までにはほとんどから了解を得たのである。

昭和52年6月28日、この結果に基づいて常務理事会を開催、規定案の全文について逐条審議したところ、全員一致で原案どおり承認可決され、時代にふ

さわしいハンディキャップ規定が誕生したのであった。

その後、この規定に対し多くの地区連盟から、JGAハンディとして全国的に統一してほしいという要望が高まったため、昭和53年9月4日から「日本ゴルフ協会ハンディキャップ規定」として施行されることになった。

グリーン研究活動とジュニアの育成

グリーン研究活動を開始したこと、ジュニア・ゴルファーの育成活動を始めたこと、なども50年代の特徴的な事業といえる。

グリーン研究活動は、昭和54年7月、新たにグリーン委員会を設置したことから始まった。同委員会は2ヵ月にわたり活動の基本方針を検討した結果、グリーン研究所の設立を課題として、とりあえず①各クラブからの調査依頼を受け付ける、②日本グリーン・キーパーズ協会に各種調査を依頼する、③九州大学名誉教授江原薰氏を委員会の常任顧問に委嘱するなどのことを決めた。そして昭和55年2月には、活動の一環として、東京・虎ノ門の農林年金会館に180人の参会者を集め、第1回グリーン研究講習会を開催したのである。

同様の講習会は、昭和29~31年にも開催したことがあった。しかし当時は、情報提供が主体で、今回のように総合的活動の一環として行われたものではなかった。

グリーン研究講習会は、昭和55年以降も、毎年の春と秋の2回開催されている。

一方、ジュニア・ゴルファー育成のための活動は、昭和55年8月に関東ジュニア選手権を創始し、翌年12月に第1回のジュニア・ゴルフ・クリニック（現ジュニア教室）を開催するというかたちではじまった。

これらは、いずれも大盛況で活動も年々繁忙化したため、昭和57年1月にはジュニア委員会を設け、委員長にJGAジュニア委員長であった松野京三常務理事を選任、今後の活動に備えた。以後ジュニア教室は、冬休みと夏休みなど学校の休暇を利用し、毎年2回開催されている。

昭和60年度関東シニアゴルフ選手権競技

予選 第1ブロック 9月10日(火)

相模野カントリー倶楽部

第2ブロック 9月11日(水)

習志野カントリークラブ空港コース

決勝 ●期日 9月25日(水)・26日(木)

●コース 千代田カントリークラブ

今や世の中は熟年パワーの時代と言われるが、ゴルフ界も例外ではなかった。年々関東シニアゴルフ選手権も参加者は増える一方で、予選の参加者総数は270名、前年度の成績によるシード選手が10名いるのだから、総計で280名に達した。それとともにシニア選手権も予選、決勝ともにレベルも一段と高い激烈な内容となつたようだ。

予選第1ブロックの相模野では浜野賢(レインボー)と朝井和也(狹山)の2人が2オーバー・パー74ストロークでトップ、以下84ストロークまでの65名が予選を通過。第2ブロックの習志野空港コースでは山田真早志(鷺之台)がイープン・パー72の好スコアでトップ、以下82ストロークまでの65名が決勝に進出した。

決勝はこの予選を通過した130名にシード選手10名を加えた140名が参加して9月25、26日の両日、



▲優勝した新井選手。

茨城県新治郡千代田村の千代田カントリークラブで行なわれた。前日までは肌寒い雨の日ばかりが続いて関係者をやきもきさせたが、第1日から雨もすっかりあがって、まずはシニア向き的好コンディションに恵まれ、競技は初日から好スコアでのせり合いとなった。

大会の興味は前回までにこの大会で三度の優勝をとげ、虎視たんたんと四度目を狙っている山口梅吉(横浜)の野望が成るか、この快進撃を阻むとすればそれは誰か…にかかっていたが、第1日目からいきなり飛び出して来たのは全くのダークホース新井邦史(あさひヶ丘)だった。インからスタートした新井は12番ホールで上り約3.5mのパットが「入ってしまって…」すっかり調子に乗り、ティ・ショットがクロス・バンカーの目玉になった15番でボギーを叩いたものの、インはイープン・パーの36、アウトに入ると3番のショート・ホールで「寄せればいいや」と思った上り約5mのパットがこれまた「入ってしまい」6番のロング・ホールは残り35mぐらいの第3打をランニング・アプローチで見事に50cmに寄せて2バーディーを追加、好調なアプローチとパットでくずれを見せず、結局2アンダー・パー70の好スコアをマーク、イープン・パーにまとめた山口をはじめ、中村実(大相模)や中山泉(戸塚)らの強豪に2ストロークの差をつけてトップを占めてしまったのである。

「前日の練習ラウンドでは3パット、4パットを連発してヒドいスコアを出してしまったので、雨の中を2時間ばかりパットの練習ばかりしていたのが良かった」のそうだが、このコースが距離も手頃なだけに勝負はアプローチとパットだと狙いの的を絞ったのが見事に達した結果だった。

それにしても初出場の昨年は169ストロークを叩いて65位に過ぎなかつたのだから、ダークホースの出現と見られても仕方がなかつた。「昨年は初日は81で、これならいけそうだと張り切つたら、2日目はバンカーばかりつかまり、しまいには足が宙に浮いてメタメタ、やはり初年兵はダメですねえ」とすっかり大会の雰囲気に飲まれたせいでいたが、その点



▲パーオンせずも絶好のアプローチとバターでバーをひろう新井選手。



▲決勝ラウンドは久し振りに青空に恵まれ、素晴らしい18番フィニッシングホール。

「今日は前から知っている我孫子の松野京三さんがご一緒だったこともあり、ゴルフを楽ししながらプレー出来た」のだそうである。

この新井も最終日の最終組でまわったトップ・グループのせり合いでは、百戦練磨の山口の強烈な攻撃ゴルフには舌を巻いた。ドライバーははぶっ飛ばし、第2打目のアイアンなどは新井のクラブとは2番手ぐらい短かいもので果敢にピンを攻める山口のゴルフには、つくづくとスケールの違いを感じさせられたようだ。「もしかしてパットさえ決っていたら、私などは4~5ストローク離されていたでしょう」と驚ろく。ただ如何にせん、その山口のパットが悪過ぎて、2番、4番とボギーを先行させた。しかも新井は4番で約5mの長いパットが入ってその差を開いた。

だが、このあたりから新井にもプレッシャーがかかるはじめた。5番ではティ・ショットをチョロ、7番では第2打をバンカーに落し、8番では再度バーディーをものにしたが、9番は第1打をこすり、2打をチョロしてボギーと荒れ出した。

そして、ティ・ショットを打ち終ると、思わず「フ

ウーッ」とため息をついている自分に気がついたのである。「これではダメだ。ゴルフを楽しむようにしなければ…」と緊張感をほぐすよう気分の転換に努め出した。するとショットは再度安定し、良い球が出はじめて、最後のハーフは1ボギーだけの37、このステディなゴルフで追いつがる山口や中山らとの2ストローク差を守り切り、通算イープン・パー144ストロークで初優勝を飾った。

「千代田カントリークラブのコースがたまたま私に合っていたせいで、運が良かつただけですよ」と新井は謙遜していたが、その顔はイープン・パーの好スコアでの優勝に満足感を一杯に漲らせていた。



▲和やかなパーティー会場。

競技

昭和60年度関東シニアゴルフ選手権決勝競技成績表

参加者132名 9月25日(水)・26日(木) 於:千代田カントリークラブ

順位	氏名	クラブ	第1ラウンド		第2ラウンド		合計	
			アウト	イン	アウト	イン		
優勝	新井邦史	あさひヶ丘	34	36	70	37	77	144
2	中山 泉	戸塚	35	37	72	37	74	146
3	山口 梅吉	横浜	35	37	72	38	76	146
4	岡野 幸日	高	37	36	73	40	74	147
5	浜野 賢	レインボーボー	41	36	77	37	74	148
6	朝井 和也	扶士山	37	37	74	37	74	148
7	井上 浩久	川崎国際	37	38	75	38	76	149
8	山田真寿美	慶	35	39	74	38	76	150
9	佐藤 道雄	中 山	39	34	73	40	77	150
10	杉山沖四郎	武藏	40	36	76	38	76	152
11	栗原 原彦	水	38	36	76	38	76	152
12	大竹栄一	武藏	40	37	77	37	76	153
13	中村 敬	南	39	37	76	40	77	153
14	芝入 雄輝	徳	40	40	80	38	76	154
14	福田国三	湯瀬シーサイド	42	38	80	37	74	154
14	竹中十良雄	日 光	40	39	79	36	75	154
14	鶴下光治	高	41	36	77	37	70	154
14	松野京三	我孫子	40	36	76	39	79	154
19	平本正美	津久井湖	38	42	80	39	76	155
19	成宮秋良	横	39	40	79	42	74	155
19	和田塙 康	江 戸崎	39	40	79	38	76	155
19	荒金茂夫	藤	38	40	78	39	77	155
19	石田秀一	大 利根	40	37	77	39	78	155
19	本多秀実	東 山	40	41	81	38	76	155
19	高木 祐	杉	37	36	73	44	82	155
26	吉村金男	セントラル	38	41	79	40	77	156
26	渡辺庄吉	唐沢	37	42	79	41	76	156
26	大塚吉昌	中 山	41	37	78	39	79	156
26	新井康之	立川国際	39	39	78	39	78	156
26	奥俊明	本 千葉	39	39	78	38	78	156
26	井上 肇	江 戸崎	40	37	77	36	73	156
26	中村 実	結	41	40	81	37	78	156
26	大相模	川崎	34	38	72	39	45	156
26	金海岸	利 根	41	39	80	41	35	156
35	飯島一雄	あさひヶ丘	40	40	80	36	71	157
35	新保衛助	ケヤ	40	39	79	42	76	157
35	鈴木政伊	川崎国際	42	35	77	42	80	157
35	林春善	戸塚	40	42	82	38	77	157
39	佐山義典	新	39	41	80	39	79	158
39	小宮五郎	鬼	39	41	80	38	76	158
39	田中保一	鬼	37	42	79	42	77	158
39	雨宮範晶	木	40	38	78	41	39	158
39	岩下広信	横	39	39	78	43	37	158
39	黒石義太	武	38	40	78	43	37	158
39	四輪喜郎	浦	39	38	77	42	81	158
39	菅沼重男	木	38	39	77	39	42	158
39	木村良雄	我孫子	38	39	77	44	37	158
39	高杉義吉	千	38	39	77	38	43	158
49	横田茂男	武	38	41	79	39	41	159
49	小宮山元正	ケヤ	38	41	79	44	36	159
49	小原 原	戸浦	44	41	85	38	36	159
49	大河内文男	日	42	36	78	42	39	159
49	遠藤慶	大	35	40	75	42	42	159
49	中川 風	山	44	38	82	39	38	159
49	塙沢彦彦	慶	41	40	81	37	41	159
49	横山 貴	ケヤ	40	41	81	39	39	159
49	山中正市	相模	42	39	81	39	39	159
49	木元栄次	慶	40	41	81	41	37	159
59	日下石英美	風	39	43	82	39	39	160
59	江原伸治	ダイヤクリーン	46	36	82	39	39	160
59	鶴 伸文	小 金井	40	35	75	44	41	160
59	林 清次郎	留	42	39	81	41	38	160
59	白倉 久	甲府国際	39	42	81	43	36	160
64	神林 錠	我孫子	44	36	80	41	40	161
64	荻津 邦扶	扶桑	40	39	79	42	40	161
64	大倉京斗	我孫子	39	40	79	42	40	161

競技

昭和60年度関東グランド・シニアゴルフ選手権競技

●期日 10月23日(水) ●コース 我孫子ゴルフ俱楽部(6,544ヤード・パー72)



▲昭和60年度関東グランド・シニア選手権会場、我孫子ゴルフ俱楽部

この日曆の上で霜降、冬への衣替えの時季と言われ、早朝は今年初めての霜が一面に、気温も11度と一番の冷え込みであった。しかしグランドシニア達を思いやるかの様に、太陽が昇るに従って温度は21度と上昇、これだけの良いお天気は年内でも数あるものではない程すばらしいゴルフ日和となりた。『これではスコアの悪いのは、お天気の責任にする事が出来ない』と言いながら、各々スタートして行った。

年々出場者も増え、盛会になってくる事は喜ばしい。毎年70才になって仲間入りしてくる者が、優勝候補に上るこの競技会も同じで、2年連続チャンピオンの矢野正親(烏山城)が相変わらず強いという評判で、それを追う新参加者の中で木場貞輝(我孫子)、角田健吉(戸塚)、武石小二郎(船橋)、宮富保(鷺之台)達の名前が上っていた。

チャンピオンの矢野は「優勝はとんでもない。今年は目の病気で手術し、最近ゴルフがやっと出来るようになり、グリーン上で距離をつかむのに一生懸命です。でも、お陰様でゴルフが出来るのが嬉しい」とサンガラスを掛けたのプレーで、インからスタートで41、アウト44の合計85で第14位タイで終った。

我孫子俱楽部をホームコースとする木場も、夏に体調をこわし、「この競技会に参加出来て良かった」と結果はアウト41、イン43の84で第8位タイに入賞。宮富保(鷺之台)も体調悪く、スコアは振わずで終った。特筆すべきは、第2位に入賞した田坂得多(東京五日市)。午後のラウンド、インコース15番でホールインワンを記録。このハーフラウンドを36で廻り、午前のアウトの42での合計78のスコアは、見事なものであった。

優勝は武石小二郎(船橋)で、インコースからのスタートで、ドライバーショットは左のバンカーの上を越えて、最短距離のフェアウェイ・センターにキープ。第2打もナイス・ショットで、ペントグリーン手前20ヤード地点へ、グリーンが一寸硬いので手前から持つて行こうと、ウェッジでグリーン・エッジ一杯に落して……と思って打った。3打はショートしてバンカーへ。練習ラウンドの時は砂がなく競技に入って砂が入った為、ヘッドだけが抜け、ボールは一寸動いただけ。5オン1パットのボギーの出で、11番もナイス・ショット。2打は150mで5番アイアンでオーバー、18番のラフ迄飛んで行き、キックが悪く松の木の根元へ4オン、2パットのダブル・ボギーとした。メートルとヤードの勘違い、「間違った自分が悪い」とさっと切替えるところは、さすが20数年間アマチュアとして選手生活をしてきた経験の賜物であろう。

自分としてはスロースターターの為、ボギー、ダボと出ても決してあわてる事はなかった」と実に明るい。12番パー、13番は30cmティ・ショットが短くバンカーへ、2オン、1パットのパーでおさめた。14番はドライバーがすごい当りで、2打はバンカー越えを狙って短くバンカーへ、3打で乗せて2パット



▼チャンピオン
武石小二郎の
スタートティング
ホールのティ
ショット。

競技

昭和60年度関東グランド・シニアゴルフ選手権競技成績表

参加者116名 10月23日水 於：我孫子ゴルフ倶楽部

のボギーとした。15番ショートホールはワンオン、2パットのバーで16番もバー。17番438ヤードでバー4、ドライバーナイス・ショットで残り200ヤード一寸、スプーンを使って旗竿4m手前にナイスオン。これを沈めてバー・ディを取ってはとった。

続く18番も又むずかしいホールの1つで、ドライバーは良く飛びフェアウェイ左サイドに220ヤード残り、クリークで旗竿6mにつけた。2パットのバーでインコース上り39、アウトは1番はすごく当って、2打はウェッジで軽るく2オン、2パットのバー。2番はドライバー250ヤード、一寸風が追っていたので、2打は8番でバーフィン、2パットのバー。



▲最年長、川本須恵男83歳の豪快なスイング……。
いつ迄もお元気で……。

3番ショートホールはバンカーから寄せきれず、2パットのボギーとし、4番は右側のバンカーから寄せてワンパットのバー。5番は2打でグリーンをオーバーして、下りのアプローチを寄せ切れずボギーとした。6番のバーはドライバーは相变らず飛び、2打を終って残り20ヤード、9番でころがしてと思って打ったが、やっとグリーンにたどりつく。この3打は今日のプレーの中で一番反省をしなければならないショットになった。

20ヤード程度は普通7番アイアンでころがして寄せていくのに、簡単に9番を持って打った事にある。状況判断がスコアに大きく影響していく上で、この様な決断をしてはいけないとしきりに反省をしておられた。

7番、距離のあるショートホールはバッフィーでナイスオン、2パットのバー。8番ロングホールは3オン、2パットのバーで、いよいよ最終9番ホー



▲「どうも有難うございました」さすが長い間のプレーの中から出てくる挨拶も見事なものであった。いつもこのように感謝してプレーしたい。

続く18番も又むずかしいホールの1つで、ドライバーは良く飛びフェアウェイ左サイドに220ヤード残り、クリークで旗竿6mにつけた。2パットのバーでインコース上り39、アウトは1番はすごく当って、2打はウェッジで軽るく2オン、2パットのバー。2番はドライバー250ヤード、一寸風が追っていたので、2打は8番でバーフィン、2パットのバー。

このアイアン・ショットは見事であった。3打のパットは決してやさしいラインではなかったが、しっかりと打って見事にバー・ディを取った。このホールのバー・ディはすばらしい迫力あるものであった。37の上りで合計76打、誰が優勝するか予想のむずかしい中で、このスコアは見事なものであり、グランドシニアとはいえ、武石のドライバーは見事の一言で、アイアンも非常に切れ味の良いショットが印象に残った。

表彰式もなごやかに優勝盃は、万雷の拍手の中、武内副理事長の手より渡され、優勝のご挨拶は、「相模の鈴木太郎、我孫子の新井吾三郎と自分の武石小二郎で廻って『太郎、二郎、三郎』のおめでたい組み合せで、和氣あいあいの楽しいゴルフが優勝にむすびついて嬉しい」と結んだ。

又、我孫子倶楽部、前田キャブテンは、「アリソン・バンカーが浅くなってしまってこのようなすばらしいスコアが出て来たのではないかと心配したが、そうではなく、グランドシニア達のゴルフがうまいからこのように立派なスコアになったのだ」とユーモアで参加者の労をねぎらう挨拶であった。

広報委員（石川博英）



▲競技が終って、なごやかなパーティー会場で、各々プレーの話がはずむ。

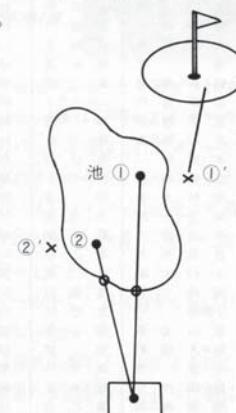
順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計	順位	氏名	クラブ	アウト	イン	合計
優勝	武石 小二郎	船橋	37	39	76	55	木崎 隆三	常陽	48	43	91
2	田坂 得多	東京五日市	42	36	78	60	本沢 正三	藤岡	45	47	92
3	角田 健吉	戸塚	38	42	80	60	朝堀 雅治	日光	46	46	92
4	鶴富 大吉	我孫子	38	43	81	60	上野 政治	鶴舞	47	45	92
5	柳引 大吉	狭山	40	42	82	60	多田 浩治	岡部チサン	47	45	92
6	伊藤 大造	甘樂	40	43	83	60	下村 重雄	浦船	45	47	92
7	荒井 春長	廣瀬之台	43	40	83	60	鈴木 義平	船橋	44	48	92
8	国本 基寿	武藏	40	44	84	60	広瀬 松司	サンロー	44	48	92
9	吉田 正三郎	霞ヶ関	39	45	84	67	寺田 正二	森ヶ浜	47	46	93
8	塙 沢龍彦	廣瀬之台	44	40	84	67	太田 騰郎	横浜	46	47	93
8	宮田 真一	船橋	41	43	84	67	有光 九州	津久井湖	47	46	93
8	木内田 栄	東洋	39	45	84	67	荒井 賢宗	相模	47	46	93
8	木場 錦輝	我孫子	41	43	84	67	鈴木 吉兵	千葉	43	50	93
14	内山 正寄	桜ヶ丘	41	44	85	67	青森 弘	霞ヶ関	49	44	93
14	坂本 平一郎	武藏	40	45	85	67	金堀 芳郎	浦池	48	45	93
14	矢野 正親	山城	44	41	85	67	森山 雄	愛梅	47	46	93
14	平善	武藏	43	42	85	75	大堀 正雄	青梅	47	47	94
14	清水 武男	水戸	41	44	85	75	村木 博司	東洋	48	46	94
19	重富 富士次郎	袖ヶ浦	47	39	86	75	渡辺 泰三	湯原	49	45	94
19	平野 善次郎	我孫子	43	43	86	78	星井 敏	星河原	46	49	95
19	橋本 正三郎	相模	40	46	86	78	星羅村	東京	48	47	95
19	田島 春五郎	総武	43	43	86	78	後藤 稲易	戸塚	50	45	95
23	森 真英	雄鹿	45	42	87	78	後佐 武太	東京五日市	49	46	95
23	松田 富智	相模	44	43	87	78	小川 保人	相模原	50	45	95
23	南宮 篤昌	本厚木	44	43	87	78	宮富 保	廣瀬之台	47	48	95
23	池尾 誠	相模	47	40	87	85	三宅 一美	津久井湖	51	45	96
23	新井 吾三郎	我孫子	47	40	87	85	浜野 亮	穴戸国際	49	47	96
23	河村 秀二	八王子	44	43	87	87	大森 清弥	多摩	53	44	97
29	山口 宇吉	二八王	45	43	88	87	山田 正吉	霞ヶ関	51	46	97
29	柏谷 宇吉	東京国際	44	44	88	87	吉田 修	我孫子	49	48	97
29	徳田 博士	愛	46	42	88	87	中村 孝	鬼怒川	49	48	97
29	川本 本邦	大利根	47	41	88	87	大谷 三良	我孫子	51	46	97
29	池永 弘	相模	45	43	88	87	浅井 武	抽浦	50	47	97
29	藤井 博	武藏	42	46	88	87	鶴岡 幸二郎	常陽	50	47	97
29	黒川 乃武夫	相模	44	44	88	87	山田 良作	GMG八王子	46	51	97
29	原田 敏一	高根	43	45	88	95	菅原 伸三郎	穗高	51	47	98
29	相沢 文夫	我孫子	45	43	88	95	九山 弘	武兵衛	49	49	98
29	栗田 英雄	廣瀬之台	47	41	88	95	本間 順一	鬼怒川	49	49	98
39	渡辺 武	山城	49	40	89	95	広兼 順一	サンロー	48	50	98
39	小倉 仁郎	新千葉	44	45	89	99	中村 浩一郎	湯原	52	47	99
39	飯原 操	船橋	44	45	89	99	菊池 一郎	霞ヶ関	48	51	99
39	山角 敏一	千葉	43	46	89	99	井口 雄二	廣瀬之台	50	49	99
43	増田 定一	廣瀬之台	43	47	90	99	吉田 利夫	茂	50	52	102
43	渡辺	武藏	45	45	90	103	小村 大郎	武	50	50	100
43	横山 鉄男	相模	47	43	90	103	堀内 茂	鬼怒川	52	48	100
43	鈴木 省吾	武藏	45	45	90	103	小野寺 一	川	51	49	100
43	南郷 実宏	相模	46	44	90	103	野寺 浩一郎	湯原	50	51	101
43	鈴木 太郎	相模	45	45	90	106	佐々木 恒利	相模	48	53	101
43	田口 和男	旧軽井沢	45	45	90	108	小室 恒茂	茂	50	52	102
43	小島 武忠	横	47	43	90	109	飯田 尚文	霞ヶ丘	46	57	103
43	渡辺 松吉	サンロー	48	42	90	109	閑根 樹	廣瀬之台	50	53	103
43	閑定 定蔵	大洗	46	44	90	109	牧原 満寿一	相模	52	51	103
43	日塔慎一	相模原	47	43	90	109	見学範	廣瀬	55	48	103
43	金久保 喜八郎	我孫子	46	44	90	109	石井 喜一	一の宮	49	54	103
55	西原 喜武	武藏	46	45	91	114	吉川 昇	湯河原	54	52	106
55	小林 健祐	柏	45	46	91	114	宮本 俊雄	武藏	55	51	106
55	浜田 良雄	武藏	45	46	91	116	石川 誠一郎	武	56	52	108
55	加賀 行三	程ヶ谷	53	38	91						

ルール Q&A

Q-1 ラテラル・ウォーター・ハザード：球の沈んでいる個所の真横にドロップしてプレーした場合

或る長いショート・ホールでの事です。私は第1打をグリーン手前の池に落してしまいました。するとキャディーが「この池はラテラル・ウォーター・ハザードだから池の横からプレーしても良いのですよ」とドロップする場所を指定してくれたので、そのままそこにドロップして次のショットでグリーンに乗せました。

ところが、グリーンでこれを見ていた同伴のプレーヤーが「ラテラル・ウォーター・ハザードの救済は球の落下した場所の横ではなく、ボールがハザードの境界を横切った地点の横か後にドロップしなければならないはずだから、誤所の2ペナルティをつけなければ……」といいます。またもう一人は「この場合は重大な違反になるから2ペナルティをつけて正しい位置からプレーをし直す必要があるだろう」といいます。この場合、2ペナルティをつけただけで済む場合と、重大な違反として失格にもなりかねない場合との2通りがあるようですが、この違いはどういうところで判断したら良いのでしょうか。お教えください。



A-1 ウォーター・ハザードの区域を越えて池の底に球が止った場合の処置は、表示のイラストで説明しますと、①、②ともに球がウォーター・ハザードの境界を横切った地点を基点としてラテラル・ウォーター・ハザードの処置をとらなければなりません。

ばなりません。それを①の真横の①'、②の真横の②'の池端にドロップしてプレーすると誤所からのプレーとなってしまいます。

誤所からのプレーも単に2打の間だけて済む場合と重大な反則となる場合とがあります。重大な反則となる場合とは、ドロップしてプレーした個所が正規の個所よりも著しくホールに近づいていたり、あるいは甚だしく有利な個所であったり状況もまちまちで、現場の状況で重大な反則となるか否かは委員会の判定事項となります。イラストの場合、①'は甚だしくホールに近づいてますから重大な反則と判定されるでしょうが、②'の場合はホールにあまり近づいていないので重大な反則は避けられるでしょう。もし、本人が①'あるいは②'の処置をしてホール・アウトする前またはホール・アウトして次のティからティ・ショットする以前に重大な反則かもしれないと思ったならば2打の間を課して正しい処置に従って第2の球をプレーすることができます。この場合、ラウンド終了後ただちにその事実を委員に報告しないと競技失格となりますから御注意下さい。重大な反則であったか否かは委員会の判定待ちとなります。参考一規則20-7b（誤所からのプレー）。

Q-2 樹上の球を誤まって落としたときの処置

A氏がティ・ショットをしましたが、ボールは林の方向に飛んで行きました。2打地点に行って捜していると、木に引っかかっている球が見えました。A氏は何とか確認しようと思い木に登り始めたところその球が落ちてきました。その球はA氏が最初に打った球だったのでA氏はその球を続けてプレーしました。ペナルティはどうなりますか。

A-2 A氏のティ・ショットした球が樹上に止まり、確認のために樹木に登りはじめたとき球が落ちたならば「プレーヤーが動かした球」となりますので1打の間を受けて前位置にリプレーししなければなりません。

もし、前位置にリプレーが不可能か、あるいはリプレーできてもとともにプレーできないならば、アンプレヤブルを宣言して球のあった個所の真下を

ルール Q&A

基点としてアンプレヤブルの処置をとる以外に方法はないでしょう。この場合、イン・プレーの球を動かした罰1打にアンプレヤブルの罰1打が加算されます。

参考一規則18-2a（プレーヤーにより動かされた球）。

Q-3 紛失球の処置をとった後で発見された初めの球でプレーを続ける

A氏がティ・ショットをしましたが、ボールは、林の方向へ飛んで行きました。木に当たった音はしませんでした。2打地点で球を捜していると、ある木の枝にボールがひっかかっているのが見えましたが、自分の球かどうかは確認できません。そこでA氏はティ・グラウンドに戻って打ち直しました。そして、再び、最初の球があると思われる所に戻ってみると、枝にひっかかっているボールが落ちて来て自分の球だと確認できました。

A氏は、同伴競技者に「これは自分が最初に打った球だ」と言い、その球をプレーし、打ち直した球を拾い上げました。この処置は正しいでしょうか。

A-3 A氏は球捜し中に樹上に1つの球を発見したものの、それが自分の球と確認できないので初めの球に対して紛失球の処置をとるために戻って打ち直しをした時点で初めの球は紛失球となり、打ち直した球がイン・プレーの球となりました。

その後で発見された初めの球は既に紛失球となっておりますから、これをプレーすれば誤球のプレーとなります。また、打ち直した球を拾い上げたことはイン・プレーの球の規則に基かない拾い上げであり、1打の間を受けてリプレーしなければなりません。従って、質問のような状況で初めの球でホール・アウトして次のホールのティ・ショットをしてしまうと競技失格となります。もし、次のホールのティ・ショットするまでに誤りに気付いたならば、打ち直した球を拾い上げた個所にリプレーして誤球のプレーに対する訂正をするならば競技失格を免かれますが、この場合は誤球のプレーの罰2打とイン・プレーの球を拾い上げた罰1打の計3打の罰が課せられます。

参照一規則24のb（紛失球）、規則15-3（誤球のプレー）。

Q-4 他のドライバーを誤って使用しても、或るホールでAがドライバーを使ってティ・ショットをし、球は右のラフに飛びました。次にBがティ・ショットしようとして、ドライバーが間違っていることに気がつきました。同じメーカーのクラブだったために、AがBのドライバーを使っていたことがわかったのです。

この指摘を受けたAは改めて最後から自分のドライバーを使って、ティ・ショットを打ち直しました。そして第2打の地点を行ったAは、ラフの中の最初の球を拾い上げ、フェア・ウェイにあった二度目の球を打ってグリーンに乗せました。

ところが一緒にまわっていたCから「どちらの球が正球かはっきりしないから、最初の球もプレーしておいた方がいいよ」と忠告され、Aは最初の球のあたたラフに戻って球をドロップし、これも打って行きました。この場合はどちらが正球になるのか、又ペナルティはいくつかをお教え下さい。

A-4 Aが誤ってBのドライバーでティ・ショットをしても、その球はイン・プレーとなります。しまったと思って自分のドライバーで打ち直したならば、その球がストロークと距離の間を受けてイン・プレーとなり、初めの球はプレー外の球と化します。Aが続いて2度目の球を打ってグリーンに乗せたことは、正しい処置でした。

その後、Cから「どちらが正球か解らないから」と言われ、「ストローク・プレーの疑わしいときの処置（規則3条3）」をとったことは誤っていましたが、前述の通り2度目のティ・ショットの球が正球となり、そのホールのスコアとなります。2度目のティ・ショットはストロークと距離の間を受けた打ち直しですから、ティから3打目のプレーとなります。これがにクラブを間違えた2罰打が加算され、5打目となります。

前回(12号)のQ&Aの2の回答ではこのクラブを間違えた2罰打が加算されていなかったので訂正いたします。

理事会・委員会

加盟俱楽部殿 昭和60年11月20日

関東ゴルフ連盟 理事長 細川護貞
60年度第5回理事会議事録

60年度第5回理事会討議事項を下記の通りお知らせします。

日 時 昭和60年11月20日(水)正午

場 所 ホテルニューオータニ

出席者 細川理事長、武内副理事長、柏山、藤原、福田彰、木村、古茶、古賀、松浦、松野、森井、中井、齊藤各常務理事、青木、福田富市、河西、金丸、勝山、北村、小山、小林金太郎、松本、大坪、佐久目、竹井、山本各理事、及び岩本、三嶋各監事

決議事項

1. 関東オープンゴルフ選手権収支概算報告の件
武内副理事長より、関東オープンの收支について概略の説明があり、開催コースに対するコース使用料として3,000万円を支払い、約3,000万円の剰余金が生ずることになると報告、全員異議なくこれを承認した。

2. コース選定委員会報告の件

武内委員長より、前回の理事会で未定だった61年度主催競技の開催コースについてはコース選定委員会の選定に一任されていたが、当委員会で検討した結果、関東俱楽部対抗決勝競技は茨城ゴルフ俱楽部、関東オープンゴルフ選手権競技はセントラルゴルフクラブに決定した旨を報告。

続いて62年度に関東で開催する日本ゴルフ協会主催競技については、ダンロップ国際オープンが茨城、日本女子オープンが筑波、日本ジュニアは霞ヶ関、日本アマチュアは騰之台、日本シニアは相模とそれぞれ候補コースを決め、目下打診中であること、また関東の主催競技については次回委員会で検討することになっているとの報告があり、全員これを了承した。

3. 50周年記念行事報告の件

武内委員長より、関東ゴルフ連盟の創立50周年記念事業費としては一般会計で2,000万円、オープ

ン会計で1,000万円の予算が組まれていたが、記念品の花瓶や連盟50年史の製作、及び送料、それに横浜カントリークラブで開催した記念競技の賞品からお土産品にプレーとパーティ一代までを含めて予算の2,000万円を43万円ばかり超過したが、オープン会計の方ではオープンの特別賞金700万円にアマチュアの記念賞品のタイ止め等が122万円に止まり、全体としては予算より少なくて済んだ旨の報告があり、これも全員異議なく了承した。

4. ハンディキャップ委員会報告の件

福田委員長より、委員会の方針として本年度は、JGAハンディキャップを実施していないクラブに向けいて普及につとめることをお願いし、神奈川と東京では委員の協力で未実施クラブを対象に説明会を開いたり、その他、2~3のクラブにも説明に出向いたが、その感触ではJGAハンディキャップをシビアに考えすぎて身動き出来ないでいる面もあるようなので、その指針ともなるよう「JGAハンディキャップのすすめ」をまとめたと報告、各地区的ハンディキャップの普及指導に各理事もご協力願いたいと要望した。

5. 61年度関東オープン準備委員会結成の件

細川理事長より、関東オープン準備委員会を結成するには先ず委員長を選任し、委員の選考は委員長に一任してはいかが…と提案があり、全員異議なくこれに賛成、委員長の選任は理事長に指名一任され、理事長は武内副理事長を指名した。

次回理事会 昭和61年1月22日(水)正午
於: ホテルニューオータニ 以上

昭和61年度月例競技スケジュール案(男子・女子共)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
開催日	28	27	28	17	男女	男女	男女	29	17	14	9	日
	日	日	日	子	子	子	子	日	日	日	日	日
(火)	木	金	木	27	6	18	14	22	8	(月)	(金)	(火)
開催場所	程	筑	抽	千	東	桜	江	東	我	鎌	嵐	武
	ヶ	ヶ	ヶ	葉	戸	京	江	京	孫	ヶ	ヶ	龍
	谷	波	浦	田	京	丘	崎	際	子	谷	山	藏

月例競技成績表

[60年9月例] 参加: 男子83名 女子37名 9月24日(火) 於: 東京国際カントリー倶楽部

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	芹沢 大介	鳥山城	36	36	72
2	能川 茂美	戸塚	36	37	73
2	鹿島田 明宏	新千葉	37	36	73
4	北川 裕規	日大	37	37	74
5	鈴木 亨	木本	38	37	75
5	桜本 陸	日大	36	39	75
5	内藤 正幸	桜ヶ丘	41	34	75
5	波場 イサク	日大	39	36	75
	(以上入賞)				
10	白井 正衛	新千葉	39	37	76
10	中村 雅明	日大	38	38	76
12	松田 守功	習志野	39	38	77
12	中野 弘治	芙蓉	37	40	77
12	森 広男	立川国際	41	36	77
12	中村 清	戸水	38	39	77

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
12	大西 佑三	桜ヶ丘	38	39	77
17	丸山茂樹	土浦	39	39	78
17	岡田 光正	風山	39	39	78
17	加藤 家光	甘楽	40	38	78
17	和田 博	東京五日市	38	40	78
17	佐野義則	富士宮	40	38	78
17	安藤 功	東名	42	36	78
17	笛原 孝雄	中津川	40	38	78
17	石井 寿	上級富士	36	42	78
25	坪井 浩一	大根模	42	37	79
25	小川 透	岡部チサン	40	39	79
25	鹿塙 一郎	セントラル	39	40	79
25	新村 ヨシオ	千葉	42	37	79
25	大出 正義	新千葉	40	39	79
25	鶴賀 義朗	船橋	39	40	79
25	吉田 八郎	府中	40	39	79

コース・レート 70.6

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	三木 恵美子	富士士	39	38	77
2	紀村 多栄	富士平原	43	37	80
	(以上入賞)				
3	青藤 美樹	甘楽	39	42	81
4	鈴木 エツ	大秦野	42	40	82
4	尾間 久江	武藏	42	40	82
4	石井 梨香	日大	42	40	82

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
4	吉沢 キミ子	セントラル	40	42	82
4	中田 朱美	袖ヶ浦	40	42	82
9	清水 厚子	大厚木	42	41	83
10	原田 香里	日大	42	42	84
10	喜多 麻子	茅ヶ崎	45	39	84
10	野崎 裕子	東京国際	42	42	84

コース・レート 68.6

[60年10月例] 参加: 男子102名 女子70名 10月16日(水) 於: 箱根カントリー倶楽部

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	北川 裕規	日大	36	35	71
1	鷗田 審人	青梅	36	35	71
1	田代 昌義	新千葉	34	37	71
1	浅川辰彦	武藏	38	33	71
5	岡田 光正	嵐山	37	35	72
5	石井 寿	上級富士	36	36	72
5	五十嵐 唯郎	東京五日市	36	36	72
5	山田 劍	東千葉	35	37	72
5	米山 刚	烏山城	36	36	72
	(以上入賞)				
10	山内 康広	東京五日市	35	38	73
11	芹沢 大介	鳥山城	38	36	74
11	秋山 光司	富士平原	36	38	74
11	室伏 健二	東名	38	36	74
11	加部 昊男	東名	35	39	74
11	内藤 正幸	桜ヶ丘	36	38	74

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
16	西山文敏	大利根	38	37	75
16	松田守功	習志野	38	37	75
16	鈴木亨	日大	40	35	75
16	小川透	岡部チサン	35	40	75
16	吉田八郎	府中	36	39	75
16	鶴賀義朗	船橋	36	39	75
16	佐野義則	富士宮	39	36	75
16	北口吉明	最上新里	38	37	75
24	中野弘治	茅ヶ崎	38	38	76
24	松岡和歲	東京よみうり	39	37	76
24	山田好美	日大	37	39	76
24	大山四郎	鎌ヶ谷	39	37	76
24	佐藤英明	新千葉	37	39	76
24	細野照夫	千成	39	37	76
24	石井重次	東京国際	37	39	76
24	勝俣	東名富士	37	39	76

コース・レート 72.8

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	喜多麻子	茅ヶ崎	40	36	76
2	三木恵美子	富士士	40	39	79
2	渡辺恵子	高根	39	40	79
2	谷弘恵	青学大	40	39	79
5	湯原光葉	鳥山城	41	39	80

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
5	吉沢キミ子	セントラル	39	41	80
7	原和子	東名	40	41	81
8	紀村多栄	富士平原	40	42	82
8	原田香里	日大	41	41	82
8	小笠原みさ子	大厚木	39	43	82

コース・レート 69.6

月例競技成績表

[60年11月例] 参加：男子97名 女子42名 11月15日(金) 於：武藏カントリークラブ(豊岡コース)

(男子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	坂 田 哲 男	袖ヶ浦	35	35	70
2	奥 通 康	茨 城	34	37	71
2	浅 川 晴 彦	武 藏	36	35	71
2	上 野 進	高 根	35	36	71
5	吉 田 八 郎	府 中	37	35	72
5	小 林 勝 美	立川国際	35	37	72
	(以上入賞)				
7	内 藤 正 幸	桜ヶ丘	36	37	73
7	佐久間 義 雄	結ヶ崎	36	37	73
9	松 井 達	豊月・鹿沼	36	38	74
9	室 伏 健 二	東 名	37	37	74
9	高 安 信 行	セントラル	38	36	74
9	和 田 雅 英	東京五日市	38	36	74
9	太 田 再 勇	大 相 横	38	36	74

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
14	田 代 昌 義	新 千 葉	38	36	74
14	山 内 宗 広	東京五日市	35	39	74
16	和 田 博	東京五日市	40	35	75
16	原 雄 雄	東名厚木	37	38	75
16	山 内 善 正	鴻 畠	38	37	75
16	石 井 直 人	富士平原	37	38	75
16	石 井 孝 一	上総富士	37	38	75
16	杉 田 強 势	GMA王子	39	36	75
22	中 村 清	水 戸	38	38	76
22	五十嵐 唯 郎	東京五日市	37	39	76
22	崎 田 審 人	青 梅	38	38	76
22	大 作 清 春	千 葉	38	38	76
22	勝 崑 菅	中 津 川	37	39	76

コース・レート 71.6

(女子)

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
1	湯 原 光 葉	鳥 山 城	39	37	76
2	尾 間 久 江	武 藏	40	37	77
	(以上入賞)				
3	吉 沢 キミ子	セントラル	40	40	80
3	木 村 敏 美	藤 岡	41	39	80
5	金 田 正 子	大 厚 木	41	40	81

順位	氏 名	クラブ	アウト	イン	合計
6	中 村 友 美	東 千 葉	42	40	82
7	太 田 由 姫 枝	川 越	41	42	83
7	新 田 佐 喜 子	藤 岡	42	41	83
7	高 橋 典 子	鳥 山 城	40	43	83
10	紀 村 多 荘	富士平原	41	43	84
10	永 沢 利 永 子	入 間	42	42	84

コース・レート 69.6

コース・レート/お知らせ

●昭和60年10月30日決定

クラブ名	Korai		Bent	
	Back	Reg	Back	Reg
狹山ゴルフクラブ (10月4日査定)				
東・南コース	71.1	69.1	72.4	70.1
南・西コース	71.4	69.5	72.6	70.5
成田国際カントリー 俱楽部 (10月10日査定)				
アウト・イン	70.3	68.6	70.0	68.3
イン・中央	69.6	68.0	69.5	67.9
中央・アウト	69.6	68.3	69.6	68.1

クラブ名	クラブ代表者
旧軽井沢ゴルフクラブ	渥美 健夫 (新)平賀新三郎 (旧)鹿島忠夫
都留カントリークラブ	(新)多田 環 (旧)大槻光雄
蓼科高原カントリー クラブ	(新)瀧澤知足 (旧)神谷 宏
伊豆にらやま カントリークラブ	(新)山田 幾夫 (旧)山田 幾男

理事長変更のお知らせ

都留カントリークラブ	(新) 多 田 環 (旧) 大 槻 光 雄
宍戸国際カントリークラブ	(新) 山崎支年生 (旧) 湯藤実則
蓼科高原カントリークラブ	(新) 瀧澤知足 (旧) 神谷 宏
伊豆にらやまカントリークラブ	(新) 山田 幾夫 (旧) 山田 幾男

●コース・レート査定スケジュールの件

- (1)東京国際カントリー俱楽部 11月30日(土)
(2)取手新日本ゴルフ俱楽部 12月4日(水)